

令和5年2月28日

嬉野市議会
議長 辻 浩一 様

文教福祉常任委員会
委員長 諸井義人

文教福祉常任委員会報告書

令和4年第4回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名

小中学校の学力向上対策及び伝統的建造物群保存地区について

調査の理由

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、佐賀県全体では全教科において全国平均正答率を下回っている。本市においては、一部の教科で全国平均正答率を下回っている。そこで、現在、全国トップの成績を出している石川県の学力向上対策について調査研究を行った。

また、金沢市は、重要伝統的建造物群保存地区に4地区が指定され、国内外から多くの観光客が訪れている。金沢市の施策及び対策を学び、本市の伝建地区の今後の保存・発展につなげるために調査研究を行った。

調査の概要

I 小中学校の学力向上対策について

調査日 令和5年1月19日（木）15時30分から17時まで

場所 石川県かほく市役所

対応者	かほく市議会	副議長	杉本 成一 氏
	かほく市議会事務局	局長	小村 登志也 氏
	かほく市教育部	学校教育課長	山川 忠一 氏
	かほく市教育部	学校教育課指導主事	竹森 恵美 氏

1, かほく市の概要

かほく市は、石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の北約 20km に位置している。平成 16 年 3 月 1 日に宇ノ気町、七塚町、高松町の 3 町が合併し「かほく市」が誕生した。面積は 64.44 km²で、人口は 35,931 人（令和 4 年 12 月 31 日現在）である。民間企業が実施した居住満足度調査において、かほく市は石川県内で 1 位にランクインしており、平成 30 年から毎年、児童生徒数が増加している。市内の小学校数は 6 校で児童数は 1,928 人、中学校数は 3 校で生徒数は 880 人（令和 4 年 5 月 1 日現在）である。

2, かほく市における全国学力・学習状況調査の結果の概要

- (1) 小 6、中 3 とともに、全国や県に比べ全ての設問において無回答率は低く、「書くこと」への意欲の向上がうかがえる。数学の平均正答率は、全国平均と比べると 5%以上上回っており、中 1 時、中 2 時と経年的にみると着実に力をつけてきていることがうかがえる。
- (2) 小 6 では規範意識や自己有用感、中 3 では生活習慣・学習習慣に関する項目で肯定的回答が多い。
- (3) 「読書が好きですか」の質問に対し、肯定的回答をする割合が、全国や県の平均を上回った。学校司書や PTA と連携し、家庭を巻き込んだ取組の成果がうかがえる。

3, かほく市の教育振興基本計画

◎基本理念：自ら考え ともに学び 明日をひらく人づくり

○基本目標

- ①生きる力をはぐくみ一人一人の個性を大切にします
- ②家庭・地域・学校が連携し教育力の向上に取り組みます
- ③生涯にわたって学ぶ意欲を持ち豊かな人間性を育成します
- ④郷土の自然、歴史、文化を継承し芸術文化活動の充実を図ります
- ⑤豊かなスポーツライフの創造をめざします
- ⑥異なる文化や価値観を尊重し世界に通じる人づくりを進めます

4, 今年度の課題と方向性

今年度の学力調査において、平均正答率は全国や県平均を上回ったものの、教科書にない問題や探究的な力を見る問題でつまずきが見られた。今後も、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、様々な場面で活用していく力を鍛える必要がある。以下の 3 点を学力向上の重点として取り組む。

- ①他校と連携して指導力向上を図る
- ②検証問題を作成し、指導方法の工夫改善を図る
- ③ICT 機器を効果的に活用し、教育の質の向上を図る

5, 委員会の意見

かほく市では、国や県が実施する学力や学習状況に関する調査に加え、市独自の学力テストを実施しており、教育目標達成のためのPDCAサイクルを確立している。また、児童生徒の個性や心のありようを立体的に描き出すために総合質問紙調査を実施し、クラスの間関係やいじめの実態、悩みなど表現しにくい様々な情報を可視化し、学級経営や学力向上の土台づくりに役立てている。更に、その調査結果を踏まえ、児童生徒と個人面談を行い、学級担任だけでなく、職員全員で調査結果を共有している。

「かほく市は、全国学力・学習状況調査の正答率が全国平均を上回っていますが、その結果に一喜一憂するのではなく、子どもたちが楽しく学校に登校し、仲良く友達と接し、個性を伸ばしあうことが大事です」と話された。このことは、本市においても同じことが言えると感じた。児童生徒の自己肯定感を育みながら、学力向上を図るためには、学校・家庭・地域が一体となって、児童生徒が自ら学びに向かう環境づくりに取り組む必要があると考える。

調査の概要

II 伝統的建造物群保存地区について

調査日 令和5年1月20日(金) 10時から12時30分まで

場所 石川県金沢市役所・東山ひがし伝統的建造物群保存地区

対応者	金沢市議会事務局議事調査課	課長	上出 憲之 氏
	〃	主事	竹村 太志 氏
	金沢市スポーツ局歴史都市推進課	課長補佐	村井 裕美 氏
	〃	歴史建造物係	係長 田丸 育世 氏
	〃	用水・歴史景観係	主査 定司 理恵 氏

1, 金沢市の概要

金沢市は、石川県のほぼ中央に位置し、東は富山県境から西は日本海まで東西23.3 km、南は白山山麓から北の河北潟まで南北37.3 kmの範囲にあって、市域の南部を山地が占め、北部は金沢平野を経て、日本海に面している。

市街地は、寺町台、小立野台、卯辰山の三つの台地の間を犀川、浅野川の二つの河川が流れており、起伏に富んだ地形となっている。人口約45万人の中核都市である。1583年に前田利家公が金沢城に入城し、城下町金沢の礎が築かれた。

戦災や大きな災害を免れたこともあり、当時の歴史的建造物や町並みだけでなく、伝統工芸、伝統芸術、食文化も受け継がれ、歴史遺産が数多く残されている。

2、景観関連条例の制定

昭和 43 年 金沢市伝統環境保存条例を制定 ※景観関連条例としては全国初

平成元年 金沢市における伝統環境の保存及び美しい景観の形成に関する条例を制定

平成 21 年 金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例を制定

・重要伝統的建造物群保存地区に 4 地区が選定される

1) 東山ひがし伝統的建造物群保存地区（茶屋町）

選定年月日：平成 13 年 11 月 14 日

建物数：143 棟

1820 年に加賀藩から公許を受けた茶屋街の姿を今に残している。

2) 主計町伝統的建造物群保存地区（茶屋町）

選定年月日：平成 20 年 6 月 9 日

建物数：50 棟

明治期以降に繁栄した近代の茶屋街の姿を今に残している。

3) 卯辰山麓伝統的建造物群保存地区（寺町）

選定年月日：平成 23 年 11 月 29 日

建物数：978 棟

卯辰山の麓に寺社が点在し、町家と混然一体となった景観が特徴である。

4) 寺町台伝統的建造物群保存地区（寺町）

選定年月日：平成 24 年 12 月 28 日

建物数：587 棟

直線的に寺社が建ち並ぶ景観と町家の奥に寺社が見受けられる景観が特徴である。

3、伝統的建造物群保存地区に対する主な施策

・伝建地区保存に係る経費補助

歴史的町並みの保存・整備のための管理、修理、修景等について予算の範囲内において経費の一部を補助

補助率：70～90% 限度額：1,500 万円 予算額：約 1 億円

・伝建地区における防災対策

歴史的町並みの保存・整備と住環境改善のため、防災計画の策定及び防災対策を段階的に実施し、貴重な文化財を災害から守り、後世に引き継ぐ。

・まちづくり協定制度

住民自らがまちづくりに関する計画を策定することができ、住民と市長との間で「まちづくり協定」を締結することができる。罰則規定はないが、住民

の要望に基づくまちづくりの実現に大きく寄与している。

- ・こまちなみの保存

伝建地区以外の「歴史（古）を感じさせるちょっとした（小）まちなみ」を「こまちなみ」と名付け、金沢の歴史を受け継ぐ貴重な遺産として保存するために財政的な支援等を行っている。

- ・金澤町屋の情報提供及び流通支援

金沢市の歴史、伝統及び文化を伝える貴重な建築物である金澤町家の売買・賃貸情報をホームページで紹介する「金澤町家情報バンク」や町家の所有者と利用希望者をつなぐ「流通コンサルティング事業」を実施している。

- ・金沢職人大学校の設置

伝統的で高度な職人の技の伝承や人材の育成を行うとともに、資料の収集、調査及び公開を図ることを目的として金沢市が設置。修了生は、金沢市内だけでなく、全国の重要文化財の保存継承に貢献している。

4、委員会の意見

金沢市の伝統的建造物群保存地区に対する熱意を感じることができた。多くの職人たちの手により文化財の修復等が行われ、歴史的な町並みの維持向上がなされている。金沢市を訪れる観光客数は、コロナ禍以前は1千万人を超えており、伝統的建造物群保存地区が観光資源として重要な役割を担っている。

本市においても伝統的建造物群保存地区「塩田津」をはじめ、歴史的建物や史跡が多く存在している。防災機能の充実や塩田津町並み保存会との連携強化、後継者の確保に取り組みながら、観光資源としての活用も大いに図るべきであると考えている。